

## 救命救急センターの整備について(諮問)

## 審議案件

次の2病院に救命救急センターを整備することについて諮問

- (1) 平塚市民病院 20床 (平塚市)
- (2) 社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス 海老名総合病院 20床 (海老名市)

## 概要

## 1 救命救急センターの整備に関する考え方

## (1) 基本方針

ア 神奈川県における救命救急センターの整備方針 【資料 2 - 2】

(平成21年2月 医療審議会で承認。)

イ 神奈川県における救命救急センター指定基準 【資料 2 - 2】

(平成24年1月 救急医療問題調査会で承認。)

ウ 神奈川県保健医療計画

(平成25年3月策定分)

(ア) 計画期間は平成25年度から平成29年度まで。

(イ) 目標として、救命救急センターを設置している二次保健医療圏の数を、平成29年度までに11医療圏とする。

## (2) 検討から指定の流れ

ア 病院開設者から、救命救急センター計画について、県医療課へ相談

イ 国要綱及び県整備方針等に基づき質的な面や必要性等の検討・確認

ウ 地元の意向・協力体制の確認

エ 県救急医療問題調査会三次救急部会における検討

(平成29年1月12日開催・了承済)

オ 県救急医療問題調査会における検討 (平成29年1月31日開催・了承済)

カ 県医療審議会上に諮問・答申

キ 神奈川県知事から病院開設者あて指定通知交付

ク 厚生労働省に指定の報告

## 2 救命救急センターの整備について

## (1) これまでの指定状況

19箇所 (平成29年3月22日現在) 【資料 2 - 3、資料 2 - 4】

## (2) 整備についての検討

## ア 指定の要望

平塚市民病院及び社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス海老名総合病院(以下「海老名総合病院」とする。)から、救命救急センター指定の要望があったため、救急医療問題調査会三次救急部会(平成29年1月12日開催)及び救急医療問題調査会(平成29年1月31日)において、整備に向けた内容の検討を行った。

【平塚市民病院】

所在地	平塚市南原1-19-1
開設者	平塚市長 落合 克宏
許可病床数	416床（一般410床、感染症6床）
救命救急センター指定希望年月日	平成29年4月1日
救命救急センター専用病床数	20床（新館3階20床）
二次保健医療圏	湘南西部地域

【海老名総合病院】

所在地	海老名市河原口1320
開設者	鄭 義弘
許可病床数	469床（一般469床）
救命救急センター指定希望年月日	平成29年4月1日
救命救急センター専用病床数	20床（本館2階20床）
二次保健医療圏	県央地域

イ 検討の視点

(ア) 神奈川県保健医療計画

現行の保健医療計画では、三次救急医療の課題として、「救命救急センターにおける診療患者数は年々増加しているため、機能強化を図ることが必要」としている。

また、取り組むべき施策として、「三次救急医療を担う救命救急センターの機能強化を図るとともに、新たに設置する場合には、その地域状況を踏まえ、同一の二次保健医療圏に複数設置することも考慮し検討する」としている。

(イ) 整備方針

整備方針1では「地域バランスを考慮」、同2では「原則として二次保健医療圏に1か所」と記載がある。

平塚市民病院は、湘南西部二次保健医療圏に位置しており、既に東海大学医学部付属病院が設置されているものの、同2ただし書きの「地域の実情により、複数配置も考慮」と記載のとおり、同一二次保健医療圏においても、地域の実情により複数設置は可能である。

また、海老名総合病院は、未設置である県央地域二次保健医療圏に位置している。

(ウ) 重篤患者数、救急受入人数

厚生労働省の「現況調」に基づき計上された年間重篤患者数によると平塚市民病院及び海老名総合病院とも既存の救命救急センターと比較して、別段劣っていない。

救急受入人数においても、消防機関へ確認した結果、2病院とも周辺の救命救急センターと遜色なく、死亡・重篤・重症の患者を受入れている。

(エ) 指定基準

平塚市民病院及び海老名総合病院ともに、医師確保等を含めた三次救急医療体制の強化を図っており、平成29年4月から、指定基準を満たすことが見込まれる。

## ウ 検討結果

救急医療問題調査会三次救急部会及び救急医療問題調査会で検討の結果、平塚市民病院及び海老名総合病院とも、救命救急センターに位置づけていくことを了承した。

### 結論(案)

2病院に救命救急センターを整備することについて承認する。

### 【参考1 指定要望2病院の現況】

- 1 厚生労働省医政局地域医療計画課の実施する「救命救急センターの充実段階評価における現況調」(以下、「現況調」という。)では、「是正を要する項目」の合計が22点未満であることが要件であるが、2病院ともに是正は0点であり、問題はない。
- 2 現況調に基づき算定した年間重篤患者数は、既存の救命救急センターと比較して別段劣るものではない。
  - ・平塚市民病院 795人
  - ・海老名総合病院 968人既存の救命救急センター(18箇所)の平均 1,192人  
いずれも平成27年度実績。
- 3 周辺消防の救急隊により搬送される傷病者の受入状況について、受入体制は充実していると考えられる。

### 平成27年度湘南地域の消防から周辺の三次救急病院への搬送実績 (単位:人)

医療機関名	軽症	中等症	重症・重篤	死亡	合計
東海大学医学部付属病院	1,178	2,147	920	104	4,349
藤沢市民病院	2,856	4,291	775	230	8,152
平塚市民病院	3,598	2,726	487	133	6,944

上記2病院は救命救急センター設置病院(指定順)

### 平成27年度県央地域の消防から周辺の三次救急病院への搬送実績 (単位:人)

医療機関名	軽症	中等症	重症・重篤	死亡	合計
北里大学病院	202	638	268	80	1,188
東海大学医学部付属病院	373	858	379	36	1,646
藤沢市民病院	91	178	64	5	338
海老名総合病院	4,218	2,413	397	139	7,167

上記3病院は救命救急センター設置病院(指定順)

【参考2 本件指定後の県央地域及び湘南地域二次保健医療圏の状況】

